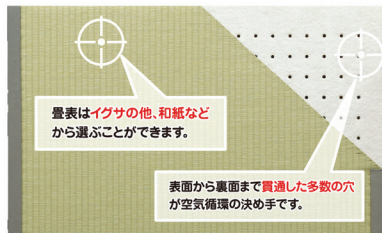


『メッシュ・グリーン』は畳と畳下の湿気を空気と共に動かす(循環させる)ことを最重要課題として開発いたしました。裏面に無数の突起がついた、すのこ状の特殊素材を用い、畳床(芯材)を貫通する「穴」を多く開けること(貫通多孔畳)により、床下の湿気を畳の外部に放出できます。



畳表はイグサの他、和紙などから選ぶことができます。

表面から裏面まで貫通した多数の穴が空気循環の決め手です。



裏面には円錐形の無数の突起がついた、プラスチックの特殊素材を用い、底地から浮かせることによって、空気の循環を促します。

独自の貫通多孔技術が
健康な畳を可能にした。

通気する快適畳メッシュクリーン

主な事業内容

畳の専門メーカー

主な取引先(納入先)

住宅メーカー、リフォーム会社、
飲食店、ホテル・旅館、寺社仏閣

主な製品

畳、襖、障子

タバタ株式会社 機能性を高めた製品開発を 通じて畳の可能性を追求

業務内容 生産能力の拡充を図って 多様な顧客に対応

タバタは、一般住宅用の畳のほか、柔道場や介護施設、保育園向けに機能性を高めた製品も製造する。1980年代後半から積極的に生産設備の自動化を進め、生産能力の拡充を図ってきた。現在は年間約6万畳を出荷している。販売先の約80%は住宅メーカーや工務店、リフォーム会社、建材関係の卸業者などが占める。残りの20%がホームページや口コミなどによる一般の顧客で、大阪のほか、和歌山、奈良などからも注文を受ける。

田端雅司社長は「畳は素足で上がって、ごろ寝もできる。日本人には畳の空間が一番落ち着く。この文化をとにかく次の世代に残していきたい」と経営にかける思いを語る。

強み 手作りのノウハウ 応用して品質向上

昭和32年に田端社長の父が「田端屋」の屋号で、大阪府堺市で畳製造を始めたのが会社のスタート。社内では定期的に勉強会を開き、伝統的な畳製作技術の継承にも力を入れる。現在、田端社長と長男の太一氏が一級畳製作技能士の

資格を持つ。太一氏は「昔ながらの手作りのノウハウを応用し、工場での生産工程にひと工夫加えることもある。それで仕上がりがまったく違ってくる」と話す。

近年、各地域の表具店が減少していることから、襖や障子、網戸を自社工場内で製造する体制も整えた。顧客に対しては畳と襖、障子、網戸をセットにした提案活動を進めている。

製品開発 柔道畳の開発契機に 独自製品次々と

畳表に抗菌効果を持たせた柔道畳「柔道部物語」を開発し、平成28年から販売を始めた。畳の芯材に表面から裏面に抜ける穴を多数設けることで衝撃吸収性を高めていることが特徴で、この技術を生かして空気を循環させることで湿気をこもりにくくした畳「メッシュクリーン」を製品化した。メッシュクリーンは「第8回ものづくり日本大賞」(経済産業省主催)で優秀賞に選ばれるなど、高い評価を受けている。

さらに、子育て中の家庭や保育現場をターゲットにした「子そだてたみ」など、機能性の高い製品を次々と市場投入している。

社長あいさつ



代表取締役
田端 雅司さん

創業以来、安心してくつろげる質の高い畳を作り続けてきました。「たたみ屋」としての誇りを持ち、伝統的な製法を守りながら、企業として生産体制の整備も進めてきました。今後も機能性の高い製品の開発を通じて、畳の可能性を追求し続けたいと考えています。

主な保有設備

- 畳製造ライン
キビ製3ライン
- 畳オゾン消毒機
キビ製
- 畳加熱乾燥処理機
キビ製ほか



住 所 / 〒593-8312
堺市
西区草部692
T E L / 072-274-2786
F A X / 072-271-3364
創 業 / 昭和32年10月
設 立 / 平成3年5月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 26名

幼児向け畳
子そだてたみ®



お手入れ簡単な「子そだてたみ」



柔道畳は警察署などでも広く採用



<http://www.tabata-ya.com/>